

大腸 CT 検査 (CT コロノグラフィー) のご案内

近年大腸がんは増加傾向にあり、この名古屋市においても例外ではありません。
便鮮血陽性などの二次検査(精密検査)は、注腸や大腸内視鏡をおこなっていますが、技術の進歩により CT でも大腸の検査が可能となりました。

そこで、ライフ健康クリニックでは今回この大腸 CT(CT コロノグラフィー)ができるように装置を導入しました。
大腸 CT は近年では TV などのメディアにもよく取り上げられる最先端の検査です。

大腸 CT 検査の流れ

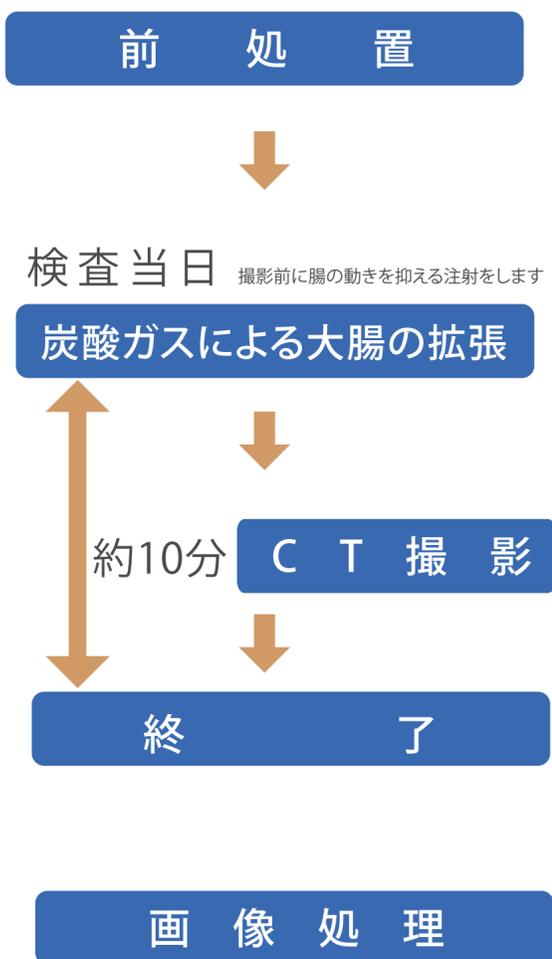


図1 当院のヘリカル CT 装置

大腸 CT は従来の大腸検査と同様に、腸の中をきれいにする必要があります。
大腸内視鏡のように多量の下剤を服用する必要はありません。

検査ではうつ伏せと仰向けの2体位による撮影なので、体位変換も少なく
高齢の方でも安心して検査が受けられます。

検査に用いる時間は約10分程度です。

また、一般に大腸の検査は肛門より空気をいれて膨らませ観察しますので、
検査後にも苦痛を伴う場合があります。しかし、この大腸 CT では空気の代わりに
炭酸ガス(二酸化炭素:CO₂)を安全に注入して CT 撮影を行います。炭酸ガス
は普通の空気に比べ、130倍体内への吸収が速く、速やかに腸管内で吸収される
ので検査後の膨満・腹痛はほとんどありません。

大腸 CT 検査 (CT コロノグラフィー) による画像診断

検査後の画像は放射線科にて画像解析を行います。

マルチスライス CT^{*2} のデジタルデータ画像を活用することで、多彩な大腸の3次元画像表示が可能になります。

従来の腹部 CT 画像^{*図2}に加え、大腸の3D画像^{*図3}、仮想内視鏡像^{*図4}、大腸仮想切除標本展開像^{*図5}が得られ、
様々な画像から病変を識別できる有用な検査となります。また大腸 CT は下腹部全般を撮影しますので、大腸以外の
臓器も同時に診断することができ、可能なかぎり病変の指摘をさせていただきます。

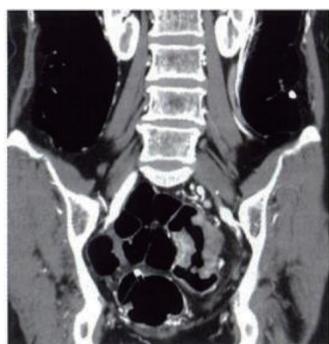


図2 MPR 像

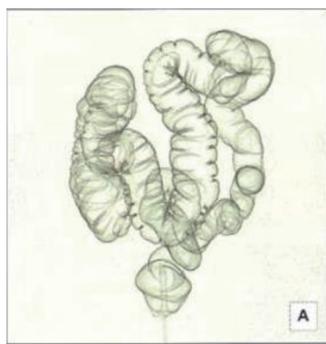


図3 仮想注腸像



図4 仮想内視鏡像 (VE)

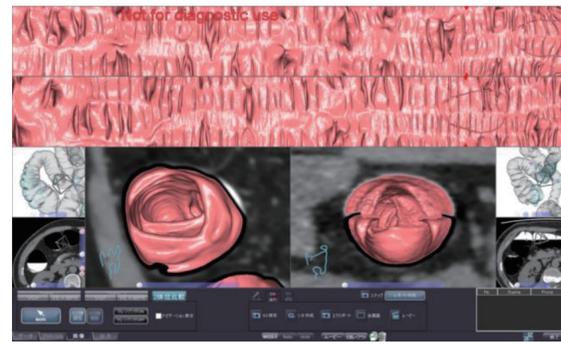


図5 WS^{*1} の展開画像

大腸 CT 検査の短所

- × 5ミリ以下のポリープや平らな病変を見つける能力は内視鏡に比べて劣っています。
- × 細胞の検査やポリープの切除などの治療はできません。
- × 最低限のX線被ばくがあります。

もし、大腸の病気が心配な場合や検診で2次検査を受ける場合はこの大腸 CT も考慮され、医師と相談し検査
を選択されることをお勧めします。今後大腸 CT は検診二次検査の受診率向上、早期診断・治療に貢献できるもの
と期待されています。

*注1 WS (ワークステーション): 医用画像を電子的に再構成する装置

*注2 マルチスライス CT: 検知器が複数存在し撮影を早く終わらせることができる CT